

## 研究開発課題概要書

### 1. 課題名(期間)

燃焼性試験法の標準化に関する研究(平成17年~19年)

### 2. 主担当者(所属グループ)

吉田正志(防火研究グループ)

### 3. 背景及び目的・必要性

建築基準法改正に伴い、防火材料の試験方法として発熱性試験と不燃性試験がISO規格に変更された。平成14年度から2年間実施した国内の性能評価機関によるラウンドロビン試験がまとめ、試験技術の統一化へ向けた細部の調整が進行している。これによって試験方法の標準的な技術開発を行うことにより、より正確なデータの品質管理が可能となる。

また、ISOを中心とした試験方法の規格に対応して、既存の試験方法による結果との整合性を取っていくことも重要である。そのためには、過去の試験方法によるデータを収集し、ISOの試験方法による結果と比較することが必要である。得られた知見はISOなどの国際的な試験方法を受け入れ時に生じる混乱を防ぐために利用される。

### 4. 研究開発の概要・範囲

17年度には、日本で採用されたISO5660発熱性試験のデータから得られた課題を明確にし、技術的に不十分な所の改善を行い、性能評価機関向け、あるいは民間企業等で試験を実施するための技術マニュアルとして建研が早期に制作する。18年度は、ガス有害性試験に関する見直しを行い、マニュアル化して行く。19年度は、模型箱試験に関する技術的な見直しをするとともに技術普及を広く行う、この中で得た改善点をISOの会議等に提案し、日本の意見を取り入れられるようにする。

### 5. 達成すべき目標

16年度は、ISO5660発熱性試験法の各問題点を明確にしたので、17年度は、これらの点を改善する方法の検討を行う。その中でISOに明記されていない技術的部分や測定方法は、日本国内だけでも統一化する方向で行い、マニュアルを製作する。そして、現在進めているISOのJIS規格の中で明記出来るように提案する。更に今後のISO-TC92へデータとともに改善点を報告し、今後の見直しを含めて提案する。

18年度は、ガス有害性試験を中心に見直しを行い、マニュアル化と技術の更新をする方向で検討する。特に、ガス有害性試験、施行後20年を経過しているので、測定技術を含めて検討する必要がある。19年度は、模型箱試験の見直しを行い、多目的に使用出来るようにし、技術的に普及するように進める。この試験は、ここ数年ISOに提案しているが、あまりデータが無いので、もう少しデータを収集して、安全性の確認が出来るようにする。

以上の3つの試験方法は、性能評価機関や試験装置を持っている民間が参考になるような操作手引き書「マニュアル」を作り、普及する活動を進める。そして、これらの試験データとASTM,CENなどで得られたデータとの整合性の得られるように検討する。